

熊取町遺跡群発掘調査概要報告書・XXIV

平成22年3月

熊取町教育委員会

はしがき

古代から熊取野とよばれた本町域は現在まで変わることなく「熊取」として独立した地域を保持し、恵まれた自然と貴重な文化遺産を今日に伝える町であります。

町内には重要文化財中家住宅をはじめ有数の文化財が知られていますが、他に埋蔵文化財包蔵地として43ヶ所を数える遺跡があるなど、町内全域に遺構や遺物が埋蔵されています。

熊取町では昭和60年度から国庫補助金等を受けて発掘調査を実施し、これまでに貴重な資料を得ることができました。

本書は平成21年度国庫補助事業として実施した発掘調査の実績報告書として作成したもので、今後多方面においてご活用いただけるよう願っております。

最後になりましたが、本年度現地での発掘調査にあたって御協力をいただきました上地所有者ならびに関係者各位に対しましてここで厚くお礼申し上げます。

平成22年3月

熊取町教育委員会

教育長 西牧 研壯

例　　言

1. 本書は、平成21年度に国庫補助金を受けて、熊取町教育委員会生涯学習推進課文化財係が実施した熊取町遺跡群発掘調査における概要報告書である。
2. 調査は、熊取町教育委員会生涯学習推進課文化グループ考古学技師前川淳を担当者として、平成21年4月1日に着手し、平成22年3月31日をもって終了した。
調査では、掘削精査した調査区を写真撮影し、調査区位置図（平面図）、調査区壁面図を作成し記録した。
3. 本書は、平成21年4月1日から平成21年12月29日までの発掘調査成果を掲載する。
4. 本書における図面の標高は、T.P.（東京湾平均潮位）を用いた。また方位は、地図以外については磁北を示すこととした。
5. 本書における図面の上色は、『新版標準土色帖』第10版（小山正忠・竹原秀雄編、農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財團法人日本色彩研究所色票監修1990年度版）を用いて目視により比定した。
6. 本書の作成及び発掘現場での作業にあたって、下記の調査補助員の参加を得た。
関井澄子、森田享子
7. 本書の執筆は熊取町教育委員会生涯学習推進課文化グループ考古学技師前川淳が行った。

目 次

第1章 はじめに	1
第2章 地理的環境と周知の遺跡	
第1節 地理的環境	1
第2節 歴史的環境	1
第3節 周知の遺跡	3
第3章 調査成果の概要	
第4節 朝代北遺跡08—1区の調査	5
第2節 野田遺跡09—1区の調査	6
第3節 野田遺跡09—8区の調査	8
第4節 野田遺跡09—11区の調査	8
第5節 東円寺跡09—2区の調査	9
第6節 東円寺跡09—5区の調査	11
第7節 七山東遺跡09—1区の調査	12
第4章 まとめ	13

第1章 はじめに

平成21年度における、文化財保護法に基づく土木工事等による埋蔵文化財の発掘の届出・通知件数は35件（平成21年12月29日現在）である。

本書では平成21年度12月29日までに国庫補助事業として実施した野田遺跡をはじめとする町内遺跡の調査6件と、平成20年度第4四半期に実施した1件を合せた7件の発掘調査の成果について概要を報告する。

遺跡名	所在地	申請面積	調査年月日
朝代北遺跡08-1区	朝代西3丁目772-1、775-2	300.00m ²	平成21年3月17日
野田遺跡09-1区	野田1丁目2001番1及び2001番2の一部	304.28m ²	平成21年4月7日
東円寺跡09-2区	野田2丁目2328番14	97.25m ²	平成21年7月6日
野田遺跡09-8区	組屋1丁目1059番15、1059番4	265.21m ²	平成21年7月16日
野田遺跡09-11区	野田1丁目125-3	132.73m ²	平成21年9月14日
東円寺跡09-5区	野田2丁目2328-24	133.37m ²	平成21年11月16日
七山東遺跡09-1区	七山東895番1、895番9	180.63m ²	平成21年12月28日

第2章 地理的環境と周知の遺跡

第1節 地理的環境



熊取町は大阪府泉南地域の中央に位置し、貝塚市・泉佐野市の両市に囲まれた町である。町域は東西約4.8km、南北約7.8kmと南北に長い木の葉状を呈している。町域の総面積は約17.23km²を有する。地形による面積比を見ると、山地41%、丘陵24%、段丘23%、低地12%に区分され、山地・丘陵部が町域総面積の約3分の2を占めている。地域別に見ると、町南部においては、泉南地域の基本山地の和泉山地から派生する和泉丘陵とその縁辺部に発達する段丘部が多くを占めている。また北部では狭小ながらも河川の対岸に洪積地が形成されている。町域に水源を持つ河川は雨山川・和田川・大井出川・見出川の4水系が存在している。いずれも町南部の山間部を水源としており南部から北部へ向かって流下し、泉佐野市を経て大阪湾に注ぎ込んでいる。本町が瀬戸内式気候区の東端に位置しているために年間降水量が少量であることから、古くから町域一帯に多くの灌漑用の溜め池を目にすることができます。

第2節 歴史的環境

遺跡数は平成21年12月現在で43ヶ所を数えている。

縄文時代以前の遺構は発見されていないが、野田遺跡の所在する野田の町立中央小学校で縄文時代早期の有孔尖頭器やそれに後続する時期の石器が検出されている。

明確に弥生時代とする遺跡は発見されていない。JR熊取駅のある大久保では、駅前整備事業に伴って昭和61年から平成2年の間に発掘調査を実施し、畿内第V様式を示す上器等を検出

して大久保遺跡群として周知されたが、その土器群は古墳時代初頭の所産と考えられている。

古墳時代の遺跡として、町中央部の山の手台住宅に五門古墳と五門北古墳が記されているが、既に開発で消滅してしまって詳細は伝わらない。宅地となってからの付近の調査では埋蔵文化財は一切確認できていない。

飛鳥時代については、平成10年度の久保城跡98-1区の調査で複数の溝が検出され、その中から飛鳥第V様式といわれる上師器や須恵器を検出している。

奈良時代についてはこれまで東円寺跡（現：野田遺跡）87-1区の調査で建物4棟と土壙、須恵器、土師器が検出されたのみにとどまっていたが、平成10年度に久保で飛鳥時代から奈良時代の土器群を伴う遺構群を検出し、平成11年7月熊取町七山（七山東遺跡）で西暦750年以降の奈良時代を示す多くの須恵器が相次いで検出された。また小垣内においては、平成13年度の試掘調査で中世の土器とともに奈良期の須恵器破片が出土している。これらのことから熊取町全域は奈良時代には本格的に開発されたものと考えられる。

平安時代については、野田の熊取町役場付近に想定されている東円寺の創建が、発掘調査で発見された軒瓦の比較考察から平安時代末とされている。また平成8年度には大久保から紺屋にかけての私立病院の発掘調査で黒色上器や須恵器、土師器が自然流路内から検出されている。

鎌倉時代以降中世に関しては、熊取町内の遺跡のほとんどが同時代を中心とした様相を示している。主だったところでは野田の野田遺跡、久保の久保城跡、大浦の大浦遺跡、紺屋の紺屋遺跡、七山の七山東遺跡、大久保の大久保E遺跡、小谷の久保A遺跡などで瓦器を豊富に含む包含層が存在しており、建物・溝といった遺構も検出されている。平成13年度に幅10m程の溝跡他を発見した小垣内西遺跡は地名に因る集落跡の可能性もある。平成15年度にはその北東200m付近で中世の井戸跡等を有する集落跡の小垣内中遺跡を発見している。中世末期の様相については、和田にある重要文化財来迎寺の新本堂建設工事の際、境内から多数の16世紀の上師器皿や瓦片が出土している。

江戸時代の遺跡としては、五門の重要文化財中家住宅およびその周辺遺跡、大久保の重要文化財降井家の降井家屋敷跡がある。平成13年度の中家住宅東側隣接地（中家住宅周辺遺跡）での調査では、3m²程度の1箇所のトレンチ内から5,500破片の土師器皿と、巴文軒丸瓦片が出土している。

第3節 周知の遺跡

周知の遺跡一覧表

番号	遺跡名	種類	時代	地目	立地	面積	主な成果等
1	来迎寺遺跡	集落跡	鎌倉	宅地	丘陵	3,100m ²	15~16世紀の陶磁器・土師器・瓦等検出
2	池ノ谷遺跡	散布地	旧石器	水田	平地	62,300m ²	
3	大宮遺跡	散布地	江戸	宅地	平地	5,000m ²	
4	東円寺跡	寺院跡	平安~江戸	宅地	平地	48,000m ²	瓦・土器多数出土。寺院の形態は不明
5	城ノ下遺跡	城郭跡	室町	宅地	丘陵	61,800m ²	
6	成合寺遺跡	墓地	室町	町	畠地	69,000m ²	14世紀代の600基以上の土塼墓群等検出
7	高藏寺城跡	城郭跡	室町	山林	山頂	34,800m ²	上屋・堀切等の遺構を確認する
8	雨山城跡	城郭跡	鎌倉	山林	山頂	45,300m ²	月見ノ亭・馬場・千疋敷の地名が残る
9	五門遺跡	散布地	古墳~江戸	宅地	丘陵	2,300m ²	土師器片等が検出される
10	五門北古墳	古墳	古墳	宅地	丘陵	1,900m ²	現在消滅
11	五門古墳	古墳	古墳	宅地	丘陵	1,500m ²	現在消滅
12	大浦中世墓地遺跡	墓地	室町	墓地	平地	18,400m ²	享徳四年(1445)銘の五輪塔地輪等出土
13	久保城跡	城郭跡	鎌倉	水田	平地	86,300m ²	飛鳥期の溝から須恵器・土師器・他瓦器多い
14	山ノ下城跡	城郭跡	鎌倉	宅地	平地	6,800m ²	
15	大谷池遺跡	散布地	古墳~江戸	池	平地	51,400m ²	
16	祭礼御旅所跡	祭礼跡	室町	山林	丘陵	6,300m ²	五門・附岸共同墓地
17	正法寺跡	寺院跡	鎌倉	倉	宅地	丘陵	55,000m ²
18	小垣内遺跡	寺院跡	江戸	道路	丘陵	7,000m ²	毘沙門堂跡、現在消滅
19	金剛法寺跡	寺院跡	室町	宅地	平地	5,100m ²	大森神社・神宮寺
20	鳥羽殿城跡	城郭跡	室町	山林	丘陵	72,600m ²	
21	築ノ谷遺跡	寺院跡	室町	山林	丘陵	32,000m ²	
22	花成寺跡	寺院跡	室町	山林	丘陵	28,000m ²	
23	降井家原敷跡	屋敷跡	室町~江戸	宅地	平地	12,000m ²	坪敷地を区画する溝や近世の陶磁器等出土
24	大久保A遺跡	散布地	江戸	宅地	平地	8,100m ²	
25	下高田遺跡	条里跡	鎌倉	田	平地	57,000m ²	
26	大久保B遺跡	集落跡	弥生~江戸	宅地	平地	47,800m ²	弥生末~古墳初期の遺物
27	紺屋遺跡	散布地	古墳~江戸	宅地	平地	22,400m ²	奈良~平安期の河川跡検出
28	白地谷遺跡	散布地	室町~江戸	田	谷	129,600m ²	
29	大久保C遺跡	散布地	室町~江戸	宅地	平地	4,500m ²	
30	千石堀城跡	城郭跡	室町	山林	丘陵	1,000m ²	天文年間(1573~92)の雜賃衆徒の城跡
31	口無池遺跡	散布地	平安~江戸	宅地	平地	11,200m ²	平安末~鎌倉初期の遺構、遺物
32	大久保D遺跡	散布地	鎌倉~江戸	宅地	平地	9,200m ²	
33	大浦遺跡	散布地	鎌倉~江戸	田	平地	4,900m ²	13~14世紀の瓦器等検出
34	久保A遺跡	散布地	鎌倉~江戸	七地	平地	4,400m ²	建物跡、8~14世紀の土器
35	久保E遺跡	集落跡	弥生~江戸	宅地	平地	2,900m ²	弥生末~古墳初期の遺物多数
36	久保B遺跡	集落跡	鎌倉~江戸	宅地	平地	5,000m ²	13~14世紀の瓦器等検出
37	中家住宅周辺遺跡	集落跡	室町~江戸	宅地	平地	21,300m ²	近世の陶磁器多数
38	朝代北遺跡	散布地	鎌倉~室町	宅地	平地	60,000m ²	13~14世紀の瓦器等検出
39	七山東遺跡	散布地	余良~室町	田	平地	80,000m ²	古代須恵器・土師器・瓦器等検出
40	小垣内西遺跡	集落跡	奈良~室町	宅地	平地	3,600m ²	古代須恵器・瓦器・瓦等検出
41	大久保F遺跡	集落跡	弥生~室町	宅地	平地	1,436m ²	石塚・平安頃の建物等検出
42	野田遺跡	集落跡	縄文~江戸	宅地	平地	310,000m ²	縄文石器・古代~近世の集落
43	小垣内中道跡	集落跡	奈良~室町	宅地	平地	3,500m ²	中世の集落

熊取町遺跡分布図



第3章 調査成果の概要

第1節 朝代北遺跡08-1区の調査

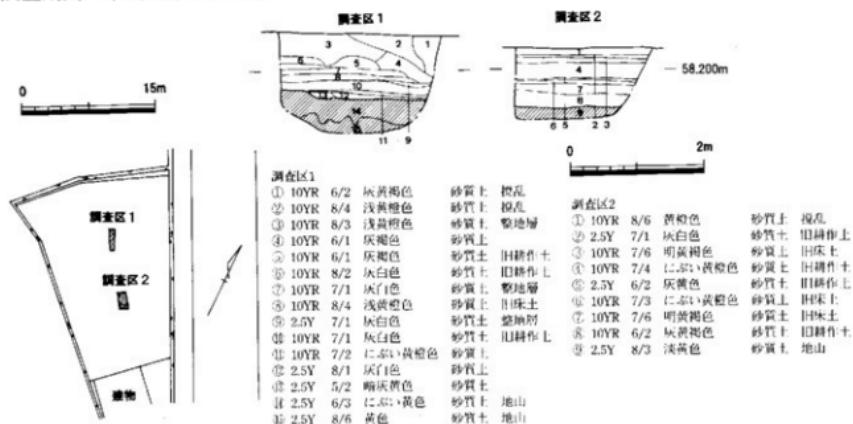


朝代北遺跡について

朝代北遺跡は平成8年に発見された遺跡で、今のところ遺構は確認されていないが、主に中世の包含層が分布する遺跡である。付近は丘陵と谷が南北方向に対をなす地形を呈しており、近年原子力を活用する大学の研究施設や工業施設が開かれるまでは、谷状の場所を埋め立てて畑地に利用されるなどしていた。

調査地 朝代西3丁目772-1、775-2

調査期間 平成21年3月17日



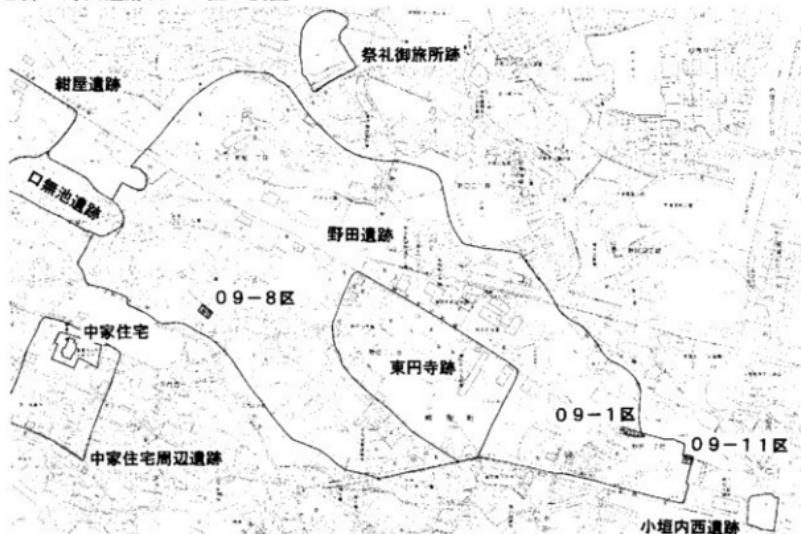
位置と環境

朝代北遺跡の南端部に位置し、主要地方道泉佐野打田線に面している。この場所より西南側はなだらかな丘陵地になっており、東側は雨山川が北に向かって流れている。京都市の原了がからは直線距離で約300mの地点である。

調査の内容と結果

2カ所の調査区を設定して機械掘削による調査を実施した。調査区1の方がやや複雑であるが、両調査区ともほぼ同様の土層と考えられる。現地表面下-0.1mまでは近年の造成に関する客上があり、以下地表面下-0.9mの地山までに近世以前の所産と考えられる耕作土が厚く存在している。中世の耕作土は幾重にも積み重なっているが、今回の調査では遺構や遺物は検出されなかった。

第2節 野田遺跡09-1区の調査



野田遺跡について

野田遺跡は熊取町役場周辺一帯の約260,000m²にも及ぶ集落遺跡である。そのうち熊取町役場前の45,000m²程の地域については、平安末期以降の寺院の瓦群やその他の埋蔵文化財が非常に多く出土し、寺院を示すものと考えられる小字名が残されている区域であることから、早くより寺院跡「東円寺跡」としていたが、この区域よりも外側における発掘調査出土例の増加とともに、その遺跡としての範囲が飛躍的に拡大していった。野田地域全体における調査では、奈良期以前の埋蔵文化財が確認される例も多く、平安末期に創建されたとされる寺院遺跡の性格を超える様相となってきたため、平成15年11月に本来の「東円寺跡」部分と、より広範な集落遺跡「野田遺跡」に分割した。

野田遺跡の範囲内の町立中央小学校で縄文時代早期と推定される尖頭器が出土した他、現在の野田集落内の調査で奈良期の掘立柱建物群や須恵器などが検出され、野田遺跡の集落が営まれた時期は少なくとも奈良時代まで遡ることが推測される。また調査の成果から、集落

は中世初期頃に非常に繁栄していたことも推測される。集落は室町時代の中期頃より減じていったことも窺われ、多くが農地に変わっていったものと考えられる。

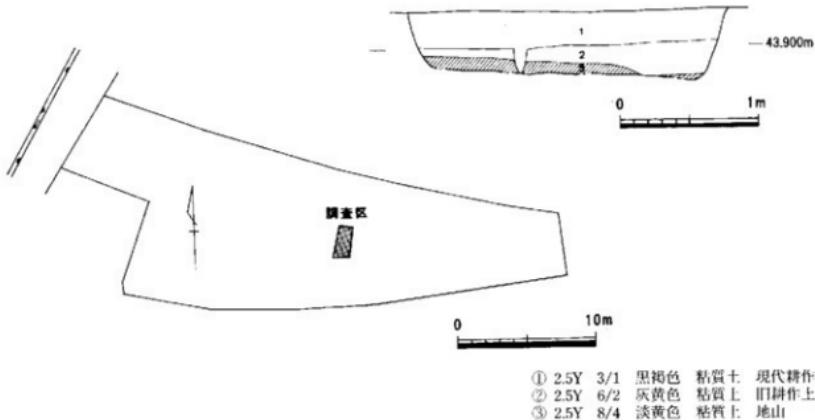
野田遺跡09-1区の調査

調査地 野田1丁目2001番1及び2001番2の一部

調査期間 平成21年4月7日

位置と環境

調査地点は広大な野田遺跡の東端に位置し、この付近はかつて野田に存在した寺院のすぐ東側に当たり、この20年間ほどの調査の蓄積によって、中世に比較的広範囲に集落が営まれていたことがわかってきており、地域である。調査地点の西側には南北方向に町道野田大原線が通っており、この道路の両側に14世紀前後の遺物を伴う集落が検出されている。88-1区、88-6区の調査では縦横に水路を配した掘立柱建物群を検出したことに始まり、92-1区ではこの寺院固有とされる蓮華文軒丸瓦を礎石に転用した掘立柱建物が検出された。其伴する瓦器碗等から、14世紀の中頃に寺院は何らかの理由によって衰退もしくは廃絶し、その後もなお調査地点周辺に集落が営まれ、15世紀以降の遺物がほとんど見られることからすると、間もなく集落も廃絶されたのだろう。現在もこの調査地点周辺には比較的古くからのものと考えられる集落が営まれているが、それらが果たして中世の頃から代々と続くもののかは不明である。調査地点は検出された中世集落の北側におよそ80m程離れており、この地点までかつての中世集落が広がっていたかを確認できるかが最大の焦点であった。



調査の内容と結果

調査は機械掘削によって実施した。黄褐色粘土の地山まで約0.4mほど掘削したが、近年まで行われていた耕作土層がこの地山面の上に存在しており、地山面は耕作前に削り取られていることがわかった。中世や近世の土層は一切存在せず、埋蔵文化財も検出しなかった。

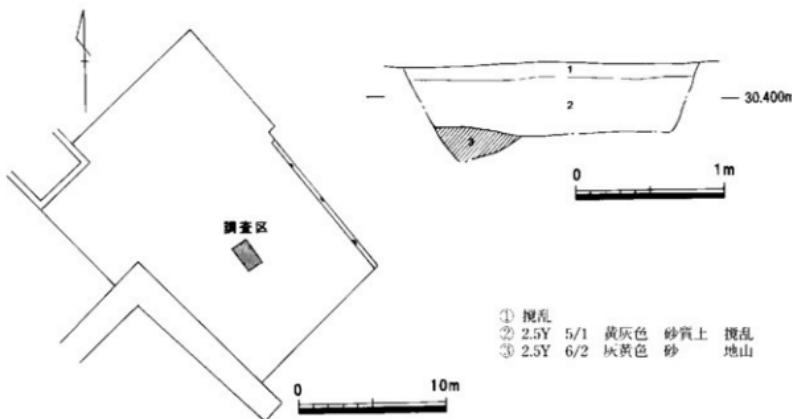
第3節 野田遺跡09-8区の調査

調査地 紺屋1丁目1059番15、1059番4

調査期間 平成21年7月16日

位置と環境

調査地点は野田遺跡の西端で、現在の熊取町紺屋の集落に面している。調査地点の南側には旧中林綿布工場を保存再生した熊取交流センター煉瓦館の広大な敷地が広がっている。この付近では平成7年道路拡幅工事に伴う調査と、平成16年の熊取交流センター建設工事に伴う調査で、奈良時代の溝状の遺構を検出している。



調査の内容と結果

調査は重機を使って予定建物の基礎深度まで掘削した。現地表面から-0.4mまでは過去の建築物を建設・撤去した際に行われた盛土があるのみで、埋蔵文化財は一切検出しなかった。

第4節 野田遺跡09-11区の調査

調査地 野田1丁目125-3

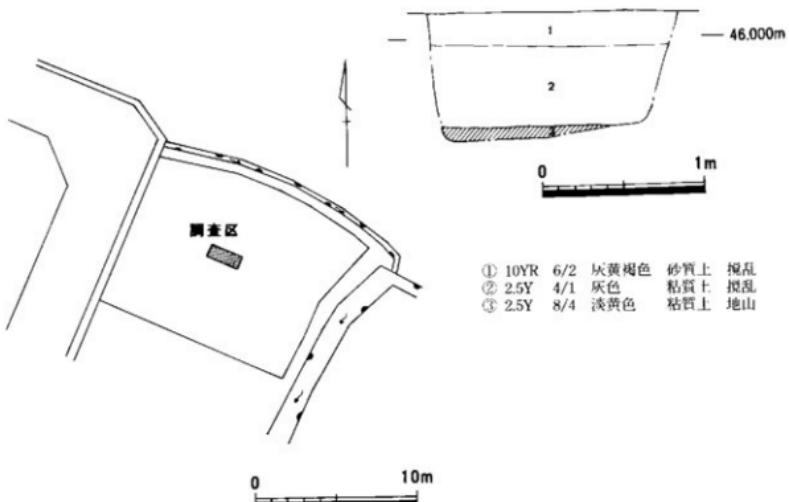
調査期間 平成21年9月14日

位置と環境

調査地点は野田遺跡の東端に位置し、先に記した09-1区からさらに東へ約150mほど行ったところにあり、以前は水田が広がっていた。申請地を含む周囲は、平成19年度の宅地開発に伴う試掘調査で、野田遺跡とほぼ同様の中世の遺物包含層が検出されたので、野田遺跡を拡大したものであるが、建物などの遺構はこれまでに確認されていない。

調査の内容と結果

調査は重機で約1mほど掘削して行ったが、この宅地を造成した際の盛土が1mほど見られ、以下には削平された地山があるだけだった。包含層をはじめとする埋蔵文化財は一切検出しなかった。



第5節 東円寺跡09-2区の調査



東円寺について

東円寺（東耀寺）は現在地上に何ら痕跡を残していない。16世紀に著述されたとされる『葛城峯中記』に「野田山…」の記述がされる寺院で、平安時代末頃に創建され、中世～近世

を通じて存続したものの明治維新の廃仏毀釈で完全に法燈が絶えたものとされている。

また江戸時代に著述された『先代考査略』によれば、東円寺はかつて「東耀寺（トウヨウジ）」と呼称されていたとされる。中世の東耀寺は豊臣秀吉の来襲で完全に焼亡したとされるが、江戸時代に入って再建され「東円寺（トウエンジ）」と呼称されるようになったという。

現在の遺跡としての東円寺跡の範囲内においては、これまで多くの発掘調査が行われて瓦器碗を中心とする中世の遺物と掘立柱建物跡が検出されているが、肝心の寺院の推定中心地では本調査・確認調査が行われていない。周辺地の調査で出土した複弁蓮華文軒丸瓦や均等唐草文軒平瓦のうち残存状態の良いものは熊取町指定文化財に指定されている。

また発掘調査の成果から、熊取町野田にあったこの寺院は創建後数十年経た鎌倉時代に火災で大方の建物群が焼亡した可能性がある。出土する中世上器群の比較観察からすれば、火災が起きたのは13世紀代だったのではないかと思われるが、その火災の原因等については今のところ不明のままである。また創建期の寺院が焼亡した後は、規模を縮小して復興したものと考えられるが、寺域の大部分は農地に作り変えられたらしいことがわかっている。引き続き周辺に集落が営まれたようで、尾上式瓦器碗編年によるⅣ期の所産が多く検出されている。15世紀以降の遺物は極端に少なくなるが、これは寺院の繁栄や集落の規模などの変遷に比例しているものと思われる。

東円寺跡09～2区の調査

調査地 野田2丁目2328番14

調査期間 平成21年7月6日

位置と環境

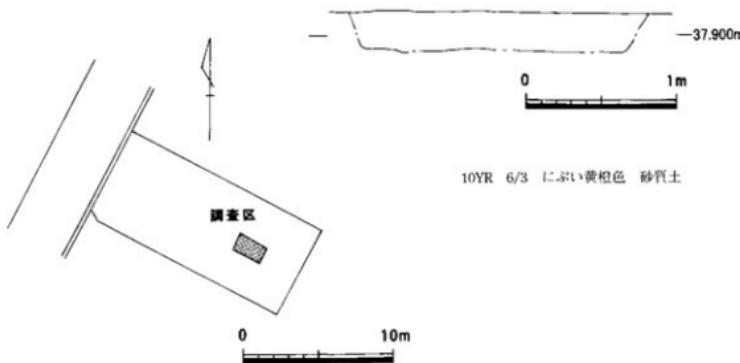
熊取町消防署の西南約100mほどの地点に立地し、周辺は野田地区のだんじり小屋や公民館のある住宅地になっている。以前より比較的平坦な場所であったことから、野田地区の集落が営まれており、今回の調査地点は集落の北端部に当たる。

遺跡としては、野田にあったとされる旧寺院の寺域の最西端部に位置するものと考えられ、近年この付近の発掘調査で、13世紀から14世紀頃の掘立柱建物が多数検出されている場所である。寺院とこの中世の集落の関係は明らかではないが、集落の掘立柱建物の根石として、この寺院の焼けた瓦類が使用されていることから、寺院が焼失してから成立した集落ではないかと考えられてきたものである。しかし、軒瓦の瓦当文様の比較検討から平安末期に創建されたとされている寺院については、明らかに同時期と考えられる遺構や遺物がほとんど見つかっていない。

伽藍があったのは熊取町役場の南側にある駐車場や、その隣の中央小学校であったと思われるが、いまだに正確なことはわかっていない。

調査の内容と結果

1か所の調査区を設定して、予定建物の基礎深度である地表面から-0.3m付近まで機械掘削を実施して調査した。過去の造成により地山面まで削平する擾乱を受け、地山面上には最近敷設したと考えられるバラスのみが存在している状況が観察された。埋蔵文化財は一切検出しなかった。



第6節 東円寺跡09-5区の調査

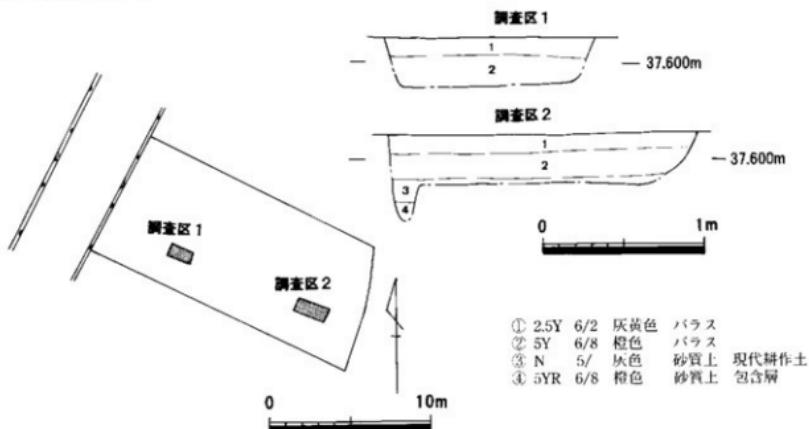
調査地 野田2丁目2328-24

調査期間 平成21年11月16日

位置と環境

09-5区は先の09-2区の調査地点から民家を一軒挟んだ北側に位置して、より熊取町消防署に近い位置にある。東隣りには商業施設が営まれており、その発掘調査時に中世の掘立柱建物群を検出している。

調査の内容と結果



調査は2か所の調査区を設定して、機械掘削により行った。予定建物の基礎深度である地表面から-0.3m付近までには旧住宅の造成時に敷設された盛土が存在しているのみで、試験的に現地表面から-0.5m付近まで掘削した部分では、中世のものと考えられる土層が観察されたが埋蔵文化財は一切検出しなかった。この層は隣接する09-1区の本調査地点で部分的に検出した土層と同様の耕作土系のものと思われる。

第7節 七山東遺跡09-1区の調査



七山東遺跡について

七山東遺跡は平成11年7月に民間の開発に伴う試掘調査により発見され、99-1区として本発掘調査が行われた。この時第Ⅳ期-2段階：平城京Ⅲ（8世紀第3四半期）からⅣ期-3段階：平城京Ⅳ（8世紀第4四半期）の須恵器と土師器を含む包含層、及び室町時代以降の瓦器を含む包含層が検出されたので、本遺跡は奈良時代と中世の複合遺跡ということができる。

調査地 七山東895番1、895番9

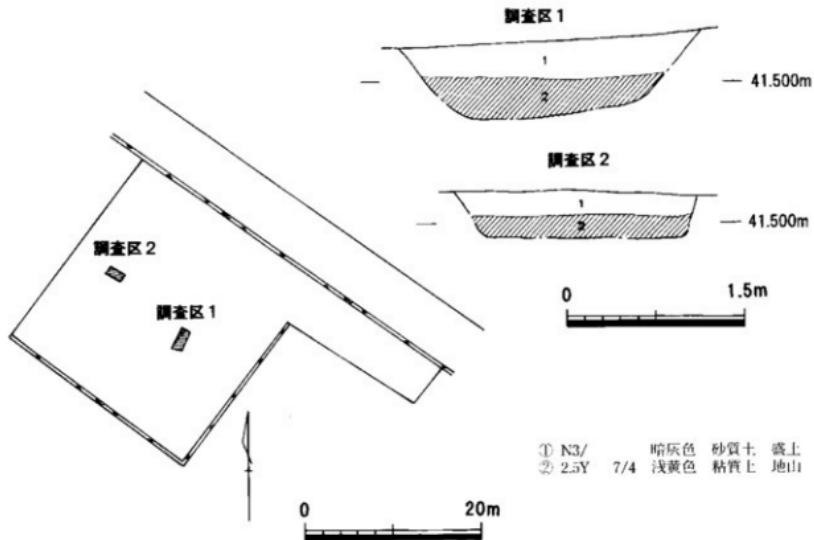
調査期間 平成21年12月28日

位置と環境

調査地点は見出川の西岸部に形成されている段丘面上にあり、南北に長い遺跡の南東端部に位置している。

調査の内容と結果

調査は2か所の調査区を設定して、予定建物の基礎深度である地表面から-0.3m付近までを目安として機械掘削を行なって調査を実施した。過去の造成により地山面まで削平する搅乱を受けており、地山面の上には最近敷設したと考えられる客土だけが存在している状況が観察された。埋蔵文化財は一切検出しなかった。



第4章 まとめ

朝代北遺跡

朝代の集落とは主要地方道泉佐野・打田線を挟んで道路向かいに当たる丘陵裾に位置しており、明確な埋蔵文化財は検出されなかったが、ほとんど搅乱されていない土層がよく残っており、今後埋蔵文化財が検出される可能性があるので、引き続き注意を要する地域と言えるだろう。

野田遺跡

09-1区は前年掘立柱建物群と大量の瓦器を検出した07-5区の調査地点の北側の丘陵腹に位置しており、07-5区に連続する中世集落跡の検出が期待されたが、埋蔵文化財は一切存在しなかった。07-5区はさらに88-3区、88-5区、それに92-1区らとともに、東円寺跡の東に存在した集落の一角を形成しているが、前年の08-2区の調査結果と同様、今回の09-1区が位置する付近にまでは集落が営まれていなかったと考えられる。

09-8区は大幅な盛土が存在しており、今回の工事で基礎掘削する範囲に埋蔵文化財は存在していないかった。この付近は野田遺跡の西部に当たり、野田遺跡の主要な遺構である中世集落が検出されたことがほとんどない地域であるが、かつて96-3区や03-9区の際に、奈良時代頃の溝や須恵器を検出しており、中世集落とは様相の異なる古い時期の遺構が存在する可能性の高い地域なので今後も注意を要する。

09-11区は野田遺跡の最も東端にあり、07-5区で検出された中世の集落の続ぎが見つかる 것을期待したが、埋蔵文化財は一切見つからなかった。しかしこの場所付近には中世の包含層がよく残っており、さらに東側の小垣内西遺跡と野田遺跡を繋ぐような場所に位置

しているため、地中深くから検出される集落遺構の広がりには今後も特に気を付けて調査を行っていきたい。

東円寺跡

09 - 2 区の調査地点は、この平成21年度の夏季に本調査を行い、中世を中心とする集落遺構を検出した東円寺跡09 - 1 区に接する場所に当たるため、同様の遺構や遺物が検出されるものと期待されたが、今回の工事の基礎掘削の範囲内には、09 - 1 区の本調査遺構検出面までは届いておらず、従って埋蔵文化財を検出することは一切なかった。

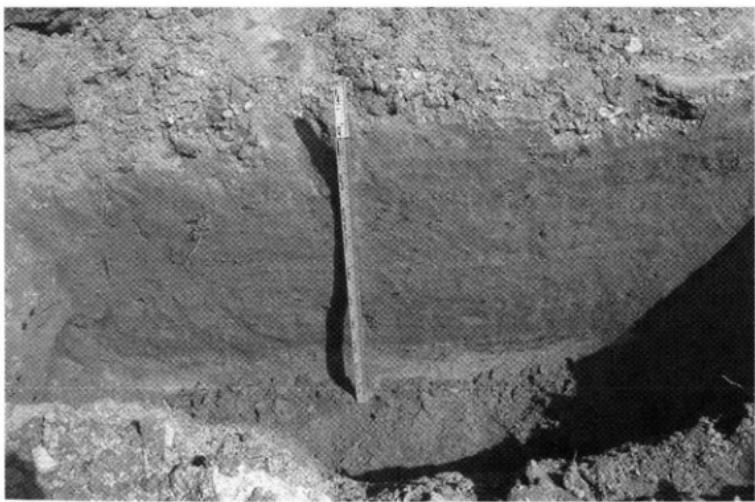
09 - 5 区は先の09 - 2 区の調査地点から民家を一軒挟んだ北側に位置している。中世集落を検出した09 - 1 区と同様の中世期の上層を一層検出したが、調査掘削が浅かったため遺構や遺物は検出しなかった。

七山東遺跡

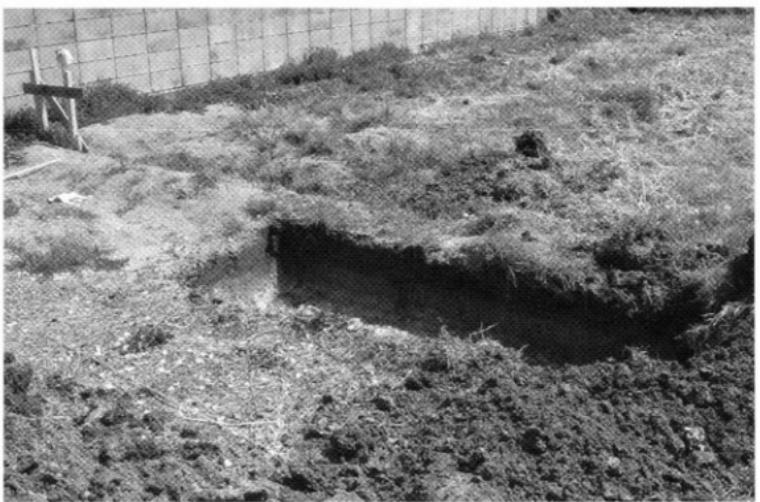
今回の09 - 1 区の調査地点は、平成11年度に須恵器を多数発見した99 - 1 区の発掘本調査地点から南東方向に200m程の距離があるが、99 - 1 区の調査地点とは見出川の左岸の同様の地形上に位置しているため、99 - 1 区と同様に須恵器をはじめとする埋蔵文化財が発見されるものと期待されたが、残念ながら造成が過去に行われて既に大きな削平を受けてしまつており、破壊を受ける前の状況を窺い知ることが不可能な状態であった。しかしながら七山東遺跡は熊取町内でも古代の埋蔵文化財が顕著な特異な遺跡であり、今後の調査例が増加すれば、ひいては熊取の地が開かれていった過程を証明することができる貴重な遺跡であることから、特に注目すべき遺跡である。



朝代北遺跡08-1区 調査区2



朝代北遺跡08-1区 調査区2 北壁



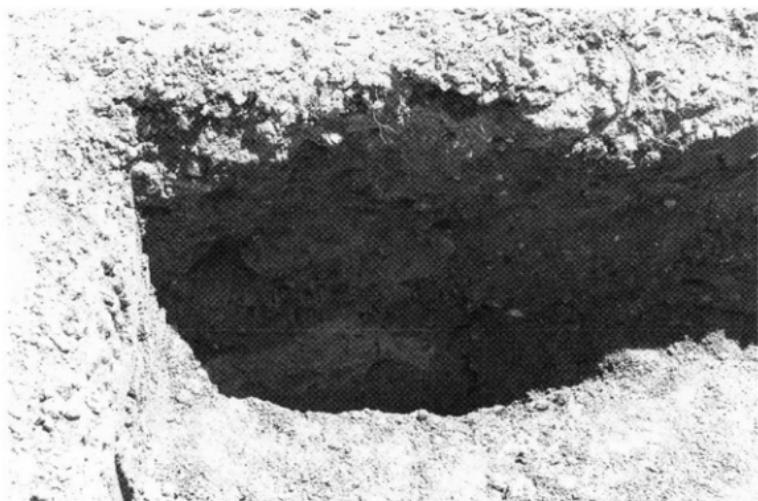
野田遺跡09-1区 調査区



野田遺跡09-1区 調査区 北壁



野田遺跡09-8区 調査区



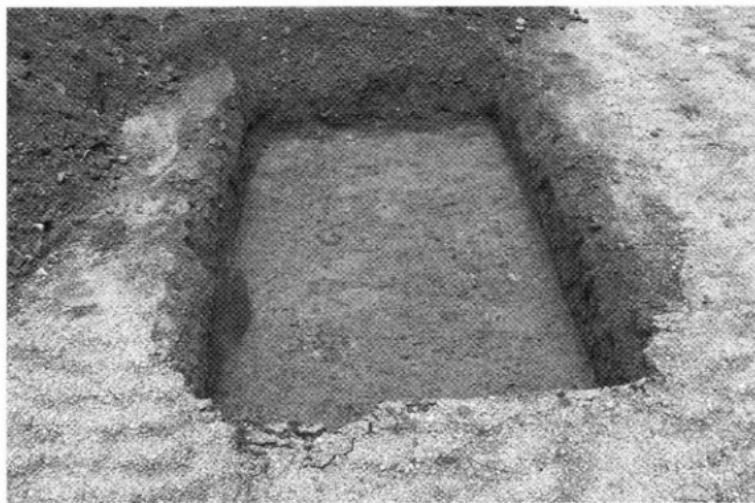
野田遺跡09-8区 調査区 北壁



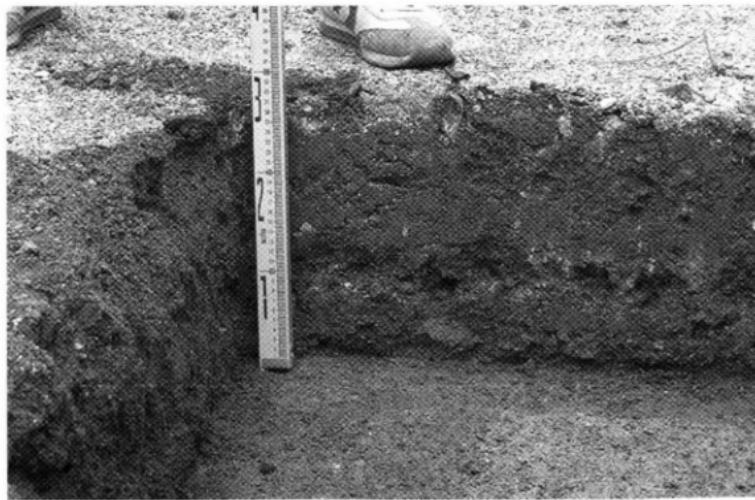
野田遺跡09-11区 調査区



野田遺跡09-11区 調査区 南壁



東円寺跡09-2区 調査区



東円寺跡09-2区 調査区 北壁



東円寺跡09-5区 調査区1



東円寺跡09-5区 調査区2 東壁



七山東遺跡09-1区 調査区1



七山東遺跡09-1区 調査区1 西壁

報告書抄録

ふりがな	くまとりちょういせきぐんはくつちょうさがいようほうこくしょ							
書名	熊取町遺跡群発掘調査概要報告書							
巻次	XXIV							
シリーズ名	熊取町埋蔵文化財調査報告							
シリーズ番号	第52集							
編著者名	前川淳							
編集機関	熊取町教育委員会							
所在地	〒590-0495 大阪府泉南郡熊取町野田一丁目1番1号							
発行年月日	西暦 2010 年 3 月							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村：遺跡番号	北緯 ° ′ ″	東緯 ° ′ ″	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因	
朝代北遺跡 08-1区	おおとわらふくしまなんぐん 大阪府泉南郡 くじかわらうあきしにん 熊取町朝代西	27361	38	34° 23' 00"	135° 21' 14"	20090317	5.0	個人専用 住宅建設
野田遺跡 09-1区	おおとわらふくしまなんぐん 大阪府泉南郡 くじかわらうの だ 熊取町野田	27361	42	34° 23' 46"	135° 21' 39"	20090407	3.0	個人専用 住宅建設
野田遺跡 09-8区	おおとわらふくしまなんぐん 大阪府泉南郡 くじかわらうの だ 熊取町紺屋	27361	42	34° 23' 52"	135° 21' 12"	20090716	3.0	個人専用 住宅建設
野田遺跡 09-11区	おおとわらふくしまなんぐん 大阪府泉南郡 くじかわらうの だ 熊取町野田	27361	42	34° 23' 45"	135° 21' 43"	20090914	3.0	個人専用 住宅建設
東円寺跡 09-2区	おおとわらふくしまなんぐん 大阪府泉南郡 くじかわらうの だ 熊取町野田	27361	4	34° 23' 53"	135° 21' 21"	20090706	3.0	個人専用 住宅建設
東円寺跡 09-5区	おおとわらふくしまなんぐん 大阪府泉南郡 くじかわらうの だ 熊取町野田	27361	4	34° 23' 53"	135° 21' 21"	20091116	4.0	個人専用 住宅建設
七山東遺跡 09-1区	おおとわらふくしまなんぐん 大阪府泉南郡 くじかわらうの だ 熊取町七山東	27361	39	34° 24' 17"	135° 22' 00"	20091228	4.0	個人専用 住宅建設
所収遺跡	種別	遺跡の主な時代	主な構造	主な遺物	特記事項			
朝代北遺跡08-1区	散布地	鎌倉～室町	なし	なし	なし			
野田遺跡09-1区	集落跡	绳文～江戸	なし	なし	なし			
野田遺跡09-8区	集落跡	绳文～江戸	なし	なし	なし			
野田遺跡09-11区	集落跡	绳文～江戸	なし	なし	なし			
東円寺跡09-2区	寺院跡	平安～江戸	なし	なし	なし			
東円寺跡09-5区	寺院跡	平安～江戸	なし	なし	なし			
七山東遺跡09-1区	散布地	奈良～室町	なし	なし	なし			

熊取町埋蔵文化財調査報告書 第52集
熊取町遺跡群発掘調査概要報告書・XXIV

発行日 平成22年3月
発行・編集 熊取町教育委員会
大阪府泉南郡熊取町野田一丁目1番1号
印刷 小笠原印刷㈱
大阪府泉佐野市新安松2丁目4-1